

三河湾紀行

2020.5.31 池田良穂

伊勢湾に接続した形で東に広がる三河湾には、いくつかの離島があり、定期航路が開設されています。篠島と日間賀島には、知多半島の先端の師崎(もうざき)港から名鉄海上観光の高速旅客船とカーフェリーが就航しており、半島の中ほどに位置する河和(こうわ)港からも同じ会社の高速旅客船が就航しています。

また、佐久島には西尾市の一色漁港から市営渡船があり、2隻の高速船が就航しています。アメリカズカップの開催で一躍有名になった蒲郡(がまごおり)の沖合の三河大島は無人島ですが、夏の期間のみ蒲郡観光汽船が3隻もの高速船を就航させています。

三河湾には、これまで2度ほどでかけたことはあるのですが、いずれも、鳥羽から伊勢湾フェリーで渥美半島先端の伊良湖崎に渡り、そこから三河湾の島へと渡りました。そこで、今回は、三河湾に面した蒲郡の近くの西浦温泉に宿泊して、周辺の船を追うことにしました。

蒲郡 がまごおり



蒲郡の駅前に展示されているアメリカズカップの日本チャレンジ艇。高いマストが印象的です。

現役時代、今治造船寄付講座でヨット船型の特性を生かした新しいPCCの開発を学生と取り組み、平水中も波浪中も在来型を大幅に上回る抵抗性能となって、大いに喜んだことを思い出しました。



駅から徒歩5分ほどの港にも、もう一隻が保存されていました。こちらはマストがありませんでした。



港の一画にある伊藤造船が、三河大島への定期船の乗り場となっていて、造船所の前に3隻の高速客船が繋がっていました。夏の数か月だけで稼ぐユニークな商売です。



造船所の前に並ぶ3隻の客船。左から、たつみ丸、第3こがね丸、第2たつみ丸です。



たつみ丸



第2たつみ丸



第3こがね丸

西浦温泉

西浦温泉は、蒲郡から車で 15 分ほどの所にあり、小さな半島の先端の山に、たくさんの温泉宿がひしめき合っています。ロビー、部屋、大浴場から三河湾が見渡せる丘の上に建つ東海園に宿泊しましたが、目の前に、大型の PCC が沖伯していた他、PCC や貨物船が時々目の前を通過していました。沖泊している船は、風によって向きが変わって、いろいろな角度から船を眺めることができました。



刻々と角度が変わっていく川崎汽船の PCC「テキサス・ハイウェイ」。3 日間共に同じ場所にいたので、新型コロナの影響で係船されているのかもしれません。

西尾市営渡船

西尾市の一色漁港から佐久島行きの市営渡船がでています。「日本の旅客船 I -高速旅客船 2018-2019-」でも紹介していますが、中濱会員から写真を提供していただきました。今回、初めて実物に会うことができました。



はまかぜ



第3さちかぜ

一色漁港の向かいの埋め立て地の一画から、「第3さちかぜ」の出港を撮影することができました。

師崎 もろざき

今回の最大の目的は、名鉄海上観光のカーフェリー「しまゆり」の撮影にありました。師崎の港からは、篠島、日間賀島に同船と、たくさんの高速旅客船が就航しています。

2つの島は、漁業の島で、島のレストラン、民宿と漁協、船会社がタイアップして、観光客の誘致を行い、離島の観光人口を増やした成功事例になっています。島での昼食がパックになった「しまランチ」というチケットが名鉄観光汽船で売っていました。



カーフェリー「しまゆり」が師崎港に入港する瞬間です。後ろに見える島が篠島です。



篠島まで乗船した「はやぶさ 2」が入港してきました。



出港直前の「はやぶさ 2」のオープンデッキから、「しまゆり」が回頭して着岸するまでのシーンを見ることができました。



篠島を出て、日間賀島に寄って師崎港に戻りました。



篠島の港内は漁船で一杯で、島のレストランでは新鮮な魚介類が格安で食べれます。昼食をとった寿司屋の大将は、「コロナでお客様が少なくなって、魚の値段も暴落してます!!」、「漁師も食べ物屋もたいへんです!!」と嘆いてました。



篠島からの帰りの船は「海鷗Ⅱ」でした。